

1 た・づ・な

就任のご挨拶

日本中央競馬会 理事 水野 豊香



京都白川の銀閣寺から烏丸鞍馬口までが、予備校への通学路でした。途中、加茂川の堤防を北上しますが、時折馬術部の学生さんの外乗に出会いました。馬上の凛々しい姿に憧れたのか、馬に乗るには北海道、馬を診るには獣医学部と決意し、私の馬人生が始まりました。1976年 JRA に入会、競走馬総合研究所を挟み、主にトレーニング・センター競走馬診療所で臨床活動に従事してきました。得意種目は、BBQ と馬の麻酔学です。

臨床獣医役時代の1993年秋、BTC診療所の立ち上げに参画しました。故宇野 駿 BTC 参与、栗山日高育成牧場長、増澤業務課長と十勝ワイン片手に作戦を練った日々、BTC の小林獣医師と旧農水省官舎で馬獣医学を語った時間を、今も昨日のように記憶しています。グラス馬場での試走も心弾む思い出ですが、1日の調教頭数は30～40頭、将来展望を大いに心配した時代でもありました。

さて、人馬の絆とも言うべきハミ受けは、競馬界では“折り合い”といわれます。私は以前から、この絆に馬術的な意味で興味を持っていました。ある時、老調教師に「若い騎手を競馬場に送り出す際、折り合いに関して何かアドバイスしますか」と尋ねました。彼は間髪入れずに、「向う正面に出たら、鞍下の馬に“オーラ・オーラ”と声をかけるよう指示している」と答えました。果たして、走行中に乗り手の声は馬に届くのか。栗東で坂路試走を重ねる中、風切音ばかりの馬耳東風、馬の耳に念仏の世界であることに気付きました。音声を発する意図は馬をなだめることではなく、実は意識的な呼気の誘発、乗り手の呼吸を整えることにありました。穏やかな呼気と吸気の連続により、肩や肘の力が抜けて拳が柔軟になり、その結果として馬はリラックスした走行が可能になるようです。老調教師が指示したオーラ・オーラの掛け声、そ

れは単純ですが、緊張の中で自ら呼吸を制御するという極めて高いレベルの御術でした。われわれは、しばしば平穏な呼吸の維持が困難な状況に遭遇します。このような時にこそ、オーラ・オーラの呼吸です。人間関係の折り合いを保つ秘訣も、心穏やかな言葉にあると考えるようになりました。

日本中央競馬会は、今年度の経営基本方針として、“お客様とともに”、“夢と感動とともに”、“信頼とともに”、“社会とともに”、そして“未来へと”というスローガンを掲げました。“夢と感動とともに”とは、レースの迫力、馬の美しさ、推理の楽しみが一体となった競馬の魅力を高め、夢と感動を皆様にお届けするという意味です。このことを可能にするためには、繁殖、馴致、育成、競走のすべてのスパンにおける人馬の絆が必須と考えます。オーラ・オーラで歩を進める所存ですので、今後ともご支援の程、宜しく申し上げます。

